

令和5年度 社会科

教科	社会科	科目	歴史	単位数	3	年次／コース	中学2年生/特進
使用教科書	中学生の歴史（『帝国書院』）						
副教材など	新中学問題集Ⅰ・Ⅱ						

1. 学習の到達目標

●科目について 歴史分野においては、人類の誕生から日本の歴史を中心に、世界の歴史も織り交ぜながら大きな流れを学習していきます。単なる知識の習得にとどまらず、授業のワークや資料の読み取りを通じて、「歴史的な見方・考え方」を身につけていきましょう。また、現代社会とのリンクを考え、身近な歴史についても学び、個々人の知的好奇心の涵養にもつなげていきます。 ●コンピテンシーについて 社会科を通して、「主体的に学ぶ姿勢」を獲得してほしと考えています。本校の学校コンピテンシー「For me」における学びに向かう力を養い、自分で走り出せる（自走できる）ことを大きな目標として展開していきます。

2. 学習方法について

●授業中において 教科書とプリントを中心に授業を行います。説明の時間はしっかりと話を聞き、プリントの穴埋めに加えて積極的にメモをとりながら授業を受けることを期待します。また、授業では個人、ペア、グループのワークを取り入れます。主体的なワークへの参加が深い学びにつながります。授業の終わりにはリフレクションを行います。何を新しく学んだか、授業を通じてどんなことを学んだのかを振り返り、学びを自己調整する力を身につけていきましょう。 ●家庭学習において 授業で行った範囲については教科書やプリントを見返すなど、復習を中心に進めてください。また副教材の問題集も計画的に進めるようにしましょう。

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	A：知識・技能	B：思考・判断・表現	C：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	日本の歴史を中心に、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目して各時代の特色を明らかにし、世界の歴史との関連性を踏まえながら、人類が築き上げてきた歴史の概観を理解する。その際、必要に応じて資料を収集し、歴史的な事象について多角的な視点で捉えることに留意する。	「知識・技能」で身につけた歴史的事象に基づく現代社会への視点や思考方法を活用しながら、歴史に関わる事象の意義や意味について論理的に説明する。その際に、趣旨が明確になる様な内容構成や他者の意見との向き合い方に留意する。	歴史に関わる諸事象について、自らが関心をもって学習に取り組むことができる。 歴史に関わる諸事象の学習を進めるなかで、日本の歴史と世界の歴史との関連に対する深い理解を形成し、国際協調に関する視座を形成する。
評 価 方 法	定期考査 ・ 一問一答型 ・ 空欄補充型 ・ 1行程度の記述（思考方法など） 小テスト 適宜必要に応じて変更する場合がある。	定期考査 ・ 初見文章や初見資料を用いた論述 問題や選択肢式問題 パフォーマンス課題 適宜必要に応じて変更する場合がある。	リフレクションシート パフォーマンス課題 ・ レポート課題 ・ 発表課題 ワーク（プリント）や問題集 適宜必要に応じて変更する場合がある。

4. 学習の活動

学 期	単元名	学習内容	主な評価の 観点			単元（題材）の評価規準	評価方法
			A	B	C		
	<第1部> 歴史の捉え方 と調べ方 <u>第1節</u> 歴史の流れと 時代区分 <u>第2節</u> 歴史の調べ 方・まとめ 方・発表のし かた <第2部> 歴史の大きな 流れと時代の 移り変わり 第1章 古代国家の成 立と東アジア <u>第1節</u> 人類の登場か ら文明の発生 へ	歴史をたどろう 1 年代の表し方 と時代区分 1 歴史の謎を探 る～問いを作ろ う～ 2 資料をよく見 てヒントを探そ う 3 謎解きの答え を分かりやすく まとめよう 1 人類がたどっ た進化 2 世界各地で生 まれる文明 3 東アジアの文 明の広がり				<第1部> （A）世紀・西暦・元号などの時期を表 す言葉の関係性や時代を区分すること の意味や意義について理解できる。ま た、資料から読み取れる情報の多義性 について理解する。 （B）居住地域や学校の所在地域を中心 に、歴史上の出来事を地理的な物事と も関係させながら考察し、表現する。 （C）歴史的分野の学習を通して、課題 を意欲的に追究し、過去を継承しつつ 現在に生きる自身の視点から歴史事象 に問いを持つことができる。 <第2部> 第1章 （A）第1節から第3節において扱う歴 史的事象に関する知識を身につけると ともに、世界の歴史における文明や政 治体制の発展が日本の 現代社会にどの ような影響を与えているかについて理 解する。 （B）律令体制の確立が仏教文化と密接 に関わることを理解した上で、大陸文 化の伝来から文化の国風化までの仕組 みを史資料に基づいて 考察し、歴史的 な論理に基づいて表現する。	

		4 ギリシャとローマの政治と文明 5 仏教・キリスト教・イスラム教の誕生			(C) 自身の歴史への関わり方についての思考を深化させ、歴史的事象に関する深い理解や論理的思考を体得するための方法を追究する姿勢を身につける。	
	<u>第2節</u> 東アジアの中の倭（日本）	1 縄文から弥生への変化 2 ムラがまとまりクニへ 3 鉄から見えるヤマト王権				
	<u>第3節</u> 中国にならった国家づくり	1 ヤマト王権と仏教伝来 2 律令国家を目指して 3 律令国家での暮らし 4 大陸の影響を受けた天平文化				
	<u>第4節</u> 展開する天皇・貴族の政治 中間考査	1 権力をにぎった貴族たち 2 唐風から日本風へ変わる文化				
	第2章 武家政権の成長と東アジア				第2章 (A) 第1節から第3節において扱う歴史的事象に関する知識を身につけるとともに、武士の時代から中世に区分されていることの合理的な理由や海を通じた世界と日本の交流について理解する。 (B) 農業などの諸産業の発達をもたらした経済的な発展と中国などの大陸と	
	<u>第1節</u> 武士の世の始まり	1 各地で生まれる武士団 2 朝廷と結びつく武士				

		3 鎌倉を中心とした武家政権 4 武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化			の交流が密接に関わっていることを理解した上で、農村の自治意識の発露や商品流通の活発化といった中世日本社会に起こった集団の飛躍について史資料を基に考察し、表現する。 (C) 第1章において各自が獲得した歴史学習における方法論を基に歴史的思考を実践する。その中で、実力主義が謳われる中世社会と自身が生きる現代社会との関連性を見出し、言語化する。	
	<u>第2節</u> 武家政権の内と外	1 海を越えて迫る元軍 2 南北朝の内乱と室町幕府 3 東アジアの交易と倭寇 4 琉球とアイヌの人々がつなぐ交易				
	<u>第3節</u> 人々の結び付きが強まる社会	1 技術の発達とさまざまな職業 2 団結して自立する民衆 3 全国に広がる下剋上 4 庶民に広がる室町文化				
	第3章 武家政権の展開と世界の動き				第3章 (A) 近世日本社会の成立までの過程と成立後の社会情勢について理解するとともに、15世紀以降、海を通じた交易がより緊密になっていることを理解する。 (B) 大航海時代や全国統一事業など、歴史的事象を一括りにする歴史的語句について、その意義や意味を理解するとともに、歴史的事象をひとまとめにする事そのものの合理性と非合理性について思考し、様々な史資料をもとに判断する。 (C) 第2章で獲得した歴史的事象と現	
	<u>第1節</u> 大航海によって結び付く世界	1 ヨーロッパの変革 2 大航海時代の幕開け 3 東アジアの貿易と南蛮人				

	第2節 戦乱から全国統一へ 期末考查 第3節 武士による全国支配の完成 第4節 天下泰平の世の中 第5節 社会の変化と幕府の対策	1 信長・秀吉による全国統一 2 秀吉が導いた近世社会 3 戦国大名と豪商が担った安土桃山文化 1 幕藩体制の始まり 2 朱印船貿易から貿易統制へ 3 四つにしばられた貿易の窓口 4 琉球王国とアイヌの人々への支配 1 身分制の下での暮らし 2 安定する社会と諸産業の発達 3 各地を結ぶ陸の道・海の道 4 上方で栄えた町人の元禄文化 1 貨幣経済の広まり 2 繰り返される要求と改革 3 江戸の庶民が担った化政文化				代社会を関連付ける視点を活用し、近世社会における歴史的事象から現代社会においても通ずる問いを作成する。	
--	---	--	--	--	--	--	--

	第4章 近代国家の歩みと国際社会 第1節 欧米諸国における「近代化」 第2節 開国と幕府の終わり 中間考査 第3節 明治政府による「近代化」の始まり 第4節 近代国家への歩み	1 市民革命の始まり 2 人権思想からフランス革命へ 3 産業革命と資本主義の成立 4 欧米諸国の近代国家建設 5 世界進出を目指す欧米諸国 1 日本を取り巻く世界情勢の変化 2 諸般の改革と幕府の衰退 3 黒船来航の衝撃と開国 4 江戸幕府の滅亡 1 新政府による改革 2 富国強兵を目指して 3 文明開花と新政府の政策 1 新たな外交と国境の画定 2 沖縄・北海道			第4章 (A) 世界で起きた「近代化」の要素を理解するとともに、「近代化」の波が訪れた日本社会の急速な変容について理解する。その中で特に「日本国民」という意識が誕生した時期について、その背景も含めた知識を身につける。 (B) 18世紀ごろの西洋において起きた急速な変化を「近代化」と表現することと19世紀ごろの日本社会における変化を「近代化」と表現すること、これら二つの表現が意味する「近代化」について考察し、史資料に基づいて判断する。 (C) 現代社会に通ずる変化である「近代化」が日本社会にもたらした影響について理解し、「近代化」に関する諸課題を提案する。	
--	---	--	--	--	--	--

		と「近代化」の波 3 自由と民権を求めて 4 帝国憲法の成果と課題				
	第5節 帝国主義と日本	1 アジアの列強を目指して 2 朝鮮をめぐる対立 日清戦争 3 世界が注目した日露戦争 4 塗り替えられたアジアの地図				
	第6節 アジアの強国の光と影	1 近代日本を支えた糸と鉄 2 変わる都市と農村 3 欧米の影響を受けた近代文化				
	第5章 二度の世界大戦と日本				第5章 (A) 日本が経験した二つの戦争について、第4章で学習した戦争とも関連づけながら、近代社会を動かした大きな理念である「帝国主義」について理解し、国民の生活に与えた影響に関する知識を身につける。 (B) 二度の戦争が持つ経験は、その経験主体である各国民国家によって相違があることを理解した上で、二度の世界大戦が持つ世界的な意義や意味について、史資料を基に考察し、表現する。 (C) 第4章で提案した諸課題について、どのような変遷が起こったのか、	
	第1節 第一次世界大戦と民族独立の動き	1 第一次世界大戦の始まりと総力戦 2 第一次世界大戦の拡大と日本 3 第一次世界大戦後の欧米諸国 4 アジアの民族				

	第2節 高まるデモクラシーの意識 期末考查 第3節 戦争に向かう世論 第4節 第二次世界大戦の惨禍 学年末考查	自決と国際協調 1 護憲運動と政党内閣の成立 2 社会運動の高まりと普通選挙の実現 3 近代都市に現れた大衆文化 1 世界恐慌と行き詰まる日本 2 欧米諸国が選択した道 3 強まる軍部と衰える政党 4 日中戦争と総力戦に向かう国民生活 1 第二次世界大戦への道 2 太平洋戦争と植民地支配の変化 3 戦局の悪化と戦時下の暮らし 4 ポツダム宣言と日本の敗戦				学習した歴史的事象を基に考察し、課題解決のための適切な資料を調査し、考察した事柄や史資料の選定理由について説明する。	
--	--	--	--	--	--	---	--

※第6章「現在に続く日本と世界」は第3学年時に扱うものとする。